2014 年(平成 26 年)2 月 28 日

相 愛 高 等 学 校

校長　安井　大悟

卒業式式辞

如来様のみ光に包まれて相愛高等学校の学窓を巣立つみなさま、ご卒業おめでとうございます。教職員一同、心よりお祝いを申しあげます。

本日は、浄土真宗本願寺派津村別院岡副輪番様をはじめ、多数のご来賓のみなさま、あわせて保護者会である育友会・後援会、そして同窓会の会長のみなさまをはじめ、本校にご縁の深い方々のご臨席を賜り、平成 25 年度の卒業証書授与式を挙行できますことは、誇らしく、大きな慶びでございます。

さて、卒業生のみなさまが相愛高校の門をくぐってから早や 3 年の歳月が過ぎました。みなさまのお顔には生き生きとした表情に加え、自信にあふれる顔が見てとれます。みなさまがのびのびと、そして精一杯努力されたことの何よりの証しであると思います。また、ご列席くださいました保護者のみなさま、お嬢様を今日まで立派にお育てくださいましたご苦労に感謝申し上げるとともにお祝いを申しのべます。おめでとうございます。

私の式辞は、本願寺派新門様のご法話を引用させていただくところから始めたいと思います。今年の元旦号の“本願寺新報”に掲載されました。

『釈尊がお説になられたのは、私たちが生きていくうえで必ず直面する“苦”についての真理(真理とは時代や場所、解釈によって変化するものではなく、普遍的な法則のこと)であります。その苦の原因は突き詰めると私たちに必ずある「煩悩」であります。わかりやすく言うと私たちが必ず持つ自己中心性ということになります』とおっしゃいました。この煩悩が原因で人は誰の例外もなく、自己中心的な考えをしてしまい、物事を正しく見ることができなくなるのです。このことを自覚しておきなさいよ！と教えてくださっています。

みなさまは、3 年もしくは 6 年間にわたり、毎日『日々の糧』を読誦してこられましたね。23 日朝をもう一度読んでみましょう。この文章はフェイスブック 200 いいね！の話題とともに、2 学期の終業式の式辞にも述べたものです。

23 日　朝

自分を中心に世の中はまわっていないのに

自分を中心にしか考えられないのが私である

自分に都合のいい人を良い人だといい

自分に都合のわるい人を悪い人だというのが私である

自分の判断と正しい判断とは必ずしも一致しないのだ

自分を見つめるもう一人の自分をもちたい

覚えていてくれると思います。そうですね。そんな自分であると自覚すること。つまり己を知ると表現すればわかりやすいですね。ならないものを何とか思い通りにしようとすれば、世の中はどこかに無理がうまれます。さらに余計なもめごとや争いを生じるものです。思い通りにならない人生、悲しみや苦しみ、欲望の尽きない私だとの自覚を持つことは、私の素顔・本性を見つめるという点で、少しはありのままの姿に気づくことでもあるのです。

相愛生としてあなたがたは「ありがとう」の感謝や「おかげさま」の謙虚さを学びました。仏教的なものの見方や考え方に立って自らを、そして世の中をみる態度を身につけるのが宗教的情操教育であります。入社試験や大学入試に出題される科目にはありませんが、あなたがたのこれからの人生、いや、人としての生き方と表現した方がいいでしょう、には随所に現れてくる教養なのであります。

無財の七施であったり、自利利他であったり、小欲知足であったりすることと思います。若さあふれる、最も多感な青春の日々をここ相愛高校で過ごされたことを、どうぞ誇りにしてください。そして本日旅立つあなたがたのこれからの人生に、相愛で培われた仏教的素養をかぐわしく漂わせてください。

『花の香りは風に逆らっては流れない。

しかし、善い人の香りは風に逆らって世に流れる。』

仏教聖典より

これは釈尊の言葉であります。これをもって式辞といたします。